

平成 28 年度

事業計画書

平成 28 年

公益事業

[1] 美術館事業

① 展示事業—展覧会名とその概要—

(1) [館蔵] 春の優品展—恋歌の筆のあと

平成 28 年 4 月 2 日 [土] —5 月 8 日 [日]

和歌は文学の世界にとどまらず、日本文化の基調をなすほどに、あらゆる分野に影響を及ぼしている。本展では、館蔵品の中から「恋歌」を筆写した平安時代の古筆など書跡を中心に、歌仙や歌物語を描く絵画など名品約 60 点を選び展観する(会期中一部展示替あり)。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻」4 月 29 日 [祝] —5 月 8 日 [日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(2) [館蔵] 近代の日本画展

平成 28 年 5 月 14 日 [土] —6 月 19 日 [日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「人物表現」を中心に、横山大観、下村観山、川合玉堂、上村松園、鏑木清方、松岡映丘、安田靉彦、前田青邨など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 40 点を選び展観する。宇野雪村コレクションの文房具も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [館蔵] 夏の優品展—動物襲来

平成 28 年 6 月 25 日 [土] —7 月 31 日 [日]

館蔵品の中から、絵画や工芸に表された様々な動物の姿を一堂に紹介。愛らしい鳥たちや小動物、ほのぼのとした牛・馬、水辺の生き物など、動物たちの造形は豊穰や栄達、そして吉祥などを願う象徴でもあった。古代から近代までの名品約 70 点を展観する(会期中一部展示替あり)。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(7 月 18 日は開館)、7 月 19 日 [火]

館内整備のため休館＝平成 28 年 8 月 1 日 [月] —8 月 26 日 [金]

(4) [館蔵] 秋の優品展一心の旅

平成 28 年 8 月 27 日 [土] — 10 月 16 日 [日]

館蔵品の中から、旅をテーマに絵画や古筆・墨跡などの名品約 40 点を紹介（会期中一部展示替あり）。旅を題材にした和歌、師から弟子へ旅立の詩、江戸時代の旅絵日記など、美術館での小さな「心の旅」を楽しむ。館蔵の日本陶磁も同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10 月 8 日 [土] — 10 月 16 日 [日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（9 月 19 日・10 月 10 日は開館）、9 月 20 日 [火]、10 月 11 日 [火]

(5) [平安書道研究会 800 回記念特別展]

平安古筆の名品―飯島春敬の観た珠玉の作品から

平成 28 年 10 月 22 日 [土] — 12 月 4 日 [日]

書家であり、日本書道の研究者であった飯島春敬氏（1906～96）が蒐集し「春敬記念書道文庫」に収めたコレクションの仮名作品を中心に撰んで展示。900 年頃に統一成立された仮名文字は、わが国独自の文字として、日本人の美意識を象徴している。約 90 点の仮名の名品で平安時代の仮名の美、日本の美の真髄を展望する（会期中一部展示替あり）。

一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

平成 28 年 12 月 10 日 [土] — 平成 29 年 2 月 12 日 [日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展観する（会期中一部展示替あり）。茶匠とゆかりの深い作品などを中心に道具の取合せを紹介。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（1 月 9 日は開館）、12 月 26 日 [月] — 1 月 4 日 [水]、1 月 10 日 [火]

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

平成 29 年 2 月 18 日 [土] — 3 月 26 日 [日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（3 月 20 日は開館）、3 月 21 日 [火]

② 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続する。新規収蔵品等を中心に調査を進め、より正確なデータベースを構築する。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会（大会出席）。
- ・ 各種研究会および研修会参加（染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会）。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

(4) 美術品の補修

蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は「高野切古今和歌集（第二種）」を修理予定。

(5) 美術品の保存

今後の保存対策のため、所蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。それに伴って収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、一部改修して、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。また作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。

(6) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国

美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の国際交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていきたい。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(7) ホームページの運営

五島美術館の公式ホームページ（URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>）を充実し、インターネット上での美術館や所蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。

(8) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(9) 日本伝統工芸展への協賛

公益財団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

③ 普及事業

(1) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への当館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(2) 友の会

茶の友・美の友・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・茶会・展示解説を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(3) ギャラリートーク（展示解説）—入館者対象

- ・[館蔵] 春の優品展—恋歌の筆のあと
-----平成 28 年 4 月 7 日、14 日、21 日、30 日、5 月 3 日、6 日の 6 回
- ・[館蔵] 近代の日本画展
-----平成 28 年 5 月 19 日、6 月 16 日の 2 回
- ・[館蔵] 夏の優品展—動物襲来
-----平成 28 年 7 月 2 日、6 日、14 日、27 日の 4 回
- ・[館蔵] 秋の優品展—心の旅
-----平成 28 年 9 月 8 日、22 日、29 日、10 月 5 日、13 日、16 日の 6 回
- ・[平安書道研究会 800 回記念特別展] 平安古筆の名品—飯島春敬の観た珠玉の作品から
-----平成 28 年 10 月 27 日、11 月 17 日の 2 回
- ・[館蔵] 茶道具取合せ展
平成 28 年 12 月 16 日、21 日、平成 29 年 1 月 13 日、20 日、25 日、2 月 3 日の 6 回
- ・[館蔵] 中国の陶芸展
-----平成 29 年 2 月 23 日、3 月 23 日の 2 回
* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(4) 茶会（当館主催）—茶の友会会員対象

- ・第 1 回＝平成 28 年 11 月 10 日～13 日の 4 日間
- ・第 2 回＝平成 29 年 3 月 9 日～12 日の 4 日間
- * 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(5) 陶芸講座（当館主催）—美の友会会員対象

- ・第 1 回＝平成 28 年 5 月 28 日・29 日 予定 定員（各日 35 名）
- ・第 2 回＝平成 28 年 9 月 24 日・25 日 予定 定員（各日 35 名）
- ・第 3 回＝平成 29 年 1 月 28 日・29 日 予定 定員（各日 35 名）

(6) 美の友会月例美術講座（当館主催）—美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座（各月 1～2 回）として開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の所蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◆書跡鑑賞シリーズXI「12世紀の古筆」

わが国特有の仮名文字が整理され、完成したと考えられるのは、西暦 900 年頃、10 世紀のはじめの事である。その後に仮名文字の美しさが追及され、11 世紀の中頃には仮名文字としての典型的な字形が完成している。さらに、仮名文字の表現は多様性がまし、11 世紀の後半から 12 世紀にかけて個性的な仮名文字と表現が現れる。今回のシリーズは、12 世紀の作品として知られる古筆を撰んで、その概略を述べ、スライドで鑑賞しながら、変体仮名を含む仮名文字の読みの練習もしてみる（8・11・12 月は休講）。

〈担当＝五島美術館学芸部 名児耶 明〉

第 1 回	2016 年 4 月 2 日 [土]	「元永本古今集」
第 2 回	5 月 7 日 [土]	「東大寺切」
第 3 回	6 月 4 日 [土]	「金沢本万葉集」
第 4 回	7 月 30 日 [土]	「二条切・柏木切」
第 5 回	9 月 3 日 [土]	「筋切・通切」
第 6 回	10 月 1 日 [土]	「烏丸切」
第 7 回	2017 年 1 月 7 日 [土]	「中院切」
第 8 回	2 月 4 日 [土]	「松籟切」
第 9 回	3 月 4 日 [土]	「大色紙」

◆工芸鑑賞シリーズ I 「工芸史拾い歩き―茶の湯編」

用途に応じた機能と使い勝手を持ち、多種多様な技法と卓抜な発想のもとで、あらゆる優れた工芸品は生み出されてきた。本講座は、人々の生活をあまねく満たす美的な空想と工芸の限りのない魅力のうち、おいしいところを摘み食いする連続講座第 1 回。今期は工芸の華、茶道具に焦点を当て、形・素材・名称含めてややこしく絡まり合った問題を解きほぐしていく（第 1～6 回は平成 27 年 9 月～平成 28 年 3 月実施）。

〈担当＝五島美術館学芸部 福島 修〉

第 7 回	4 月 9 日 [土]	「中世人の喫茶道具」
第 8 回	5 月 14 日 [土]	「侘びのかたち」
第 9 回	6 月 11 日 [土]	「茶会料理と膳碗の構成」
第 10 回	7 月 9 日 [土]	「名物と銘」

◆染織鑑賞シリーズXI「名物裂を楽しむ―『雅游漫録』の世界」

美術館や茶席で拝見する古い仕覆、絵画や書の表具裂はどのような織物で誂えているのだろう。今回も昨年度に引き続き、『雅游漫録』（巻四・宝暦 5 年〈1755〉）を取り上げる。

同書を読み進めながら、仕覆や表具裂に用いられる名物裂の鑑賞ポイントと茶入などの関連資料をスライドで紹介する。また毎回、紙で作る名物裂手鑑（見本帳）コーナーも実施している（8・11月は休講。第1～10回は平成27年4月～平成28年3月実施）。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

第11回	4月16日 [土]	「緞子―有楽・笹蔓」
第12回	5月21日 [土]	「緞子―亡羊・道玄」
第13回	6月18日 [土]	「緞子―珠光・紹鷗」
第14回	7月16日 [土]	「間道―青木・鎌倉・望月」
第15回	9月17日 [土]	「間道―吉野・船越・日野」
第16回	10月15日 [土]	「海気・ちゃんば」
第17回	12月17日 [土]	「『雅游漫録』まとめ」
第18回	2017年 1月21日 [土]	「『雅游漫録』に載らない名物裂」
第19回	2月18日 [土]	「名物裂の見分け方と鑑賞①」
第20回	3月25日 [土]	「名物裂の見分け方と鑑賞②」

◆陶磁鑑賞シリーズV「宋磁の魅力」

やきものには陶器・磁器・土器などの種類があり、古来人類の身近な道具である長い歴史をもつ工芸品の一つである。とくに中国は、英語の china が国名でもありまた陶磁器を意味することが示すように、古代より現代まで最大の陶磁器生産地として世界にその名を轟かせてきた。なかでも宋時代（北宋 960～1126 年、南宋 1127～1279 年）は、各地で窯業が盛んとなり、中国陶磁史上もっとも高い評価を受けた芸術性の高いやきものが生まれた。今回は、北宋・南宋時代を中心に、遼・金時代まで含め、各窯場の名品を紹介し、宋時代のやきもの「宋磁」鑑賞のポイントを解説する（11月は休講）。

〈担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

第1回	2016年 9月10日 [土]	「定窯」
第2回	10月8日 [土]	「磁州窯・遼の陶磁器」
第3回	12月10日 [土]	「耀州窯・鈞窯・汝窯」
第4回	2017年 1月14日 [土]	「越州窯・南宋官窯・龍泉窯」
第5回	2月11日 [土]	「景德鎮窯・南方の白磁」
第6回	3月18日 [土]	「建窯・吉州窯」

(7) 青少年向け普及講座

- ・小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設

する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 かなで書かれた和歌」 平成 28 年 4 月 17 日 [日]
- ② 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 5 月 5 日 [祝]
- ③ 「こども美術講座 日本画を知ろう」 6 月 5 日 [日]
- ④ 「こども美術講座 動物のかたち」 7 月 24 日 [日]
- ⑤ 「こども美術講座 お坊さんの書」 9 月 18 日 [日]
- ⑥ 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 10 月 10 日 [祝]
- ⑦ 「こども美術講座 かなの誕生」 11 月 23 日 [祝]
- ⑧ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定（日程未定）

・東急電鉄株式会社「キッズプログラム」に参加予定（平成 29 年 1 月中旬頃）。

・世田谷区教育委員会に協力して、「才能の芽を育てる体験学習・日本文化講座」に講師を派遣、茶室を貸し出す（平成 28 年 11 月 5 日、19 日、12 月 3 日、17 日）。

(8) 特別展関連行事予定

- ・[平安書道研究会 800 回記念特別展] 平安古筆の名品一飯島春敬の観た珠玉の作品から
（期間＝10 月 22 日～12 月 4 日）
レセプション＝平成 28 年 10 月 21 日（金）
記念講演会＝日程未定、計 3 回を予定。

(9) ミュージアム・コンサート

音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

平成 28 年 6 月 29 日（水） クアルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏会

平成 28 年 9 月 15 日（木） 杵屋五三魅と気鋭奏者による長唄演奏会

(10) 茶室公開

公開日＝「館蔵 近代の日本画展」期間中（平成 28 年 5 月 26 日〈木〉）

「館蔵 茶道具取合せ展」期間中（平成 29 年 2 月 8 日〈水〉）

入館者を対象に、普段は公開を制限している茶室の解説・及び呈茶を学芸部が行う。

(11) 展示案内、HP 等の国際化

外国人観光客の増加に伴い、館内の設備や展示案内、HP 等の表記を順次国際化していく。

[2] 文庫事業

① 収集・保存事業

(1) 図書保存

- ・ 書庫内の参考書誌、図書資料等と和古書との分離収納作業を継続する。
- ・ 本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・ 書庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期す。新収資料の防虫には特に留意する。

(2) 図書修理

破損の恐れのある保存状態の悪い資料を、閲覧の頻度等を考慮しつつ修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料（辞典、叢書、全集、記録類等）を購入する。

② 展示・公開・調査・研究事業

(1) 図書調査

元政庵瑞光寺等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(2) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第27回配本「伝記・願文・語学等」を刊行する。
- ・機関誌「かがみ」第47号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、マイクロフィルム等を頒布する。

(5) 普及

- ・各種団体（大学・研究会・図書館等）の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(6) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(7) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

収支予算書

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	[11,363,000]	[11,299,000]	[64,000]
特 定 資 産 運 用 益	[10,000]	[10,000]	[0]
公 益 事 業 収 益	[135,093,000]	[159,011,000]	[△ 23,918,000]
受 取 寄 付 金	[193,708,000]	[147,290,000]	[46,418,000]
雑 収 益	[70,000]	[25,000]	[45,000]
経常収益計	340,244,000	317,635,000	22,609,000
(2) 経常費用			
事 業 費	[316,218,000]	[331,387,000]	[△ 15,169,000]
管 理 費	[26,311,000]	[26,488,000]	[△ 177,000]
経常費用計	342,529,000	357,875,000	△ 15,346,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,285,000	△ 40,240,000	37,955,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,285,000	△ 40,240,000	37,955,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,285,000	△ 40,240,000	37,955,000
一般正味財産期首残高	1,045,484,079	1,085,724,079	△ 40,240,000
一般正味財産期末残高	1,043,199,079	1,045,484,079	△ 2,285,000
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 付 金	[39,000,000]	[0]	[39,000,000]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 67,708,000]	[△ 67,290,000]	[△ 418,000]
当期指定正味財産増減額	△ 28,708,000	△ 67,290,000	38,582,000
指定正味財産期首残高	3,925,445,029	3,992,735,029	△ 67,290,000
指定正味財産期末残高	3,896,737,029	3,925,445,029	△ 28,708,000
III 正味財産期末残高	4,939,936,108	4,970,929,108	△ 30,993,000